

— 赤川水系 —

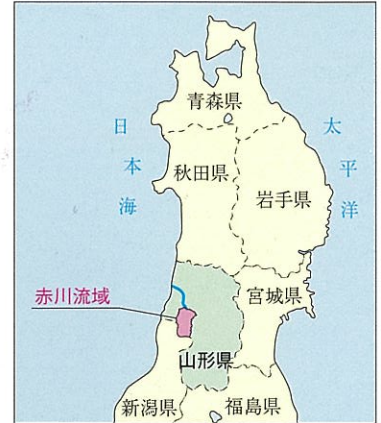
# 伝説とロマンをはこぶ赤川



伝説の怪魚「タキタロウ」が生息するといわれる大鳥池

国土交通省 東北地方整備局 新庄工事事務所

## 流域概要



赤川流域は、朝日山系の以東岳(1,771m)及び寒江山(1,695m)に源を発し、東側は月山山系の稜線に、脊梁山脈を分水嶺とし、険しい山岳群に囲まれ、上流は梵字川の深い溪谷、下流域は庄内平野の美田地帯と内川、青龍寺川、大山川の支川を合わせ北流し日本海へ注ぎ、流路延長70.4km、流域面積856.7km<sup>2</sup>を有しています。

月山山系の山々は、春は残雪と広葉樹林の深緑とのコントラスト、秋は紅葉が見事なところで、みどり豊かな流域といえます。特にブナの原生林が多く、鳥類はカモ、ハクチョウなどが見られ、溪谷ではイワナ、ヤマメなどの渓流釣りも楽しめます。また、東大鳥川の最上流部は大鳥池があり、幻の魚「タキタロウ」が棲息すると言われています。

地質は、花崗岩類を基岩としています。新第三紀の火山活動に伴う礫岩、泥岩、凝灰岩等と、第四紀の火山噴出物が分布しています。また、流域の上流域は月山山系の重荒廃地、一般荒廃地と朝日山系の一般荒廃地になっており、特に月山山頂周辺においては、高山性気象条件も重なり、著しく侵食、風化が進み大量の土砂の発生源となっています。

さらに、大鳥川上流域は人跡稀な原始境をそのままに残した急峻な地形を呈し、風化が著しく、山腹や溪岸のいたるところに崩壊地がみられ、溪谷には多量の土砂が供給されています。

凡例	
	重荒廃地
	一般荒廃地
	土石流危険溪流
	公園地域
	直轄砂防えん堤
	砂防指定地

- ※1 一般荒廃地とは  
崩壊地、とくしゃ地、滑落崖地が点在し、その延面積がその地域の相当量を占め、その地域に荒廃をもたらすとともに、下流域に土砂氾濫及び洪水氾濫の危険を及ぼすおそれのある地域。  
延面積が相当量とは  
●崩壊地 1%以上  
●とくしゃ地 10%以上  
●滑落崖地 5%以上
- ※2 重荒廃地域とは  
大規模な崩壊地、とくしゃ地、滑落崖地を含んだ地質及び植生の不安定な地域。  
●大規模な崩壊地とは1崩壊面積0.3km<sup>2</sup>以上のもの。  
●大規模なとくしゃ地とは1とくしゃ面積2.0km<sup>2</sup>以上のもの。  
●大規模な滑落崖地とは断続的な滑落崖に含まれる面積1km<sup>2</sup>以上のもの。

出典：砂防便覧



【西大鳥川上流の状況】

## 災害の履歴



上本郷地区平沢（昭和46年7月16日）



越中山地区越中沢川（昭和46年7月16日）



朝日村行沢地区（昭和46年7月16日）

昭和15年大洪水時の本郷橋



**S15** 7月12日大洪水、鶴岡で152mmを記録し、鶴岡市を中心に大洪水となりました。

**S28** 8月14日大洪水、荒沢172mm/日を記録しました。大泉村県道上に1mも冠水し、各所で決壊したほか崖崩れも発生して交通途絶、田畑冠水6ha、浸水家屋10数戸の被害がありました。

**S44** 8月5～7日にかけて県北部を中心に集中豪雨があり荒沢では148mm/日を記録し、家屋床上浸水6戸、床下浸水13戸、農地被害1929haの被害がありました。

**S46** 7月15日から朝日山系を中心とした集中豪雨により、藤島で225mm/日を記録し、家屋流失1戸、全半壊3戸、床上浸水38戸、床下浸水38戸の他、田畑の流出、埋没、冠水などの被害がありました。

**H2** 6月26～28日の梅雨前線により、月山209mm、大井沢182mmを記録し、家屋床下浸水25戸、田畑冠水575ha、道路損壊、山崩れがありました。

## 直轄事業着手の経緯

赤川の上流域の諸支川は樹枝状を形成し流路が短く急勾配となっているところがあります。また、上流域には月山山系の荒廃地域を抱え、洪水時には土砂流出が多く、赤川流域の河床を上昇させ、庄内平野に多くの水害をもたらしていました。

このような背景から、昭和62年より直轄事業を実施しています。平成12年度末現在までに砂防えん堤6基が完成しています。

## 赤川流域の砂防事業

「安全・安心、環境、活力」をテーマとした砂防事業の推進

### 安全・安心

- 荒廃地対策としての砂防施設の整備促進  
倉沢川ダム
- 貯水池保全対策として、多目的ダム上流域での砂防施設の整備促進  
東大鳥川ダム 等
- 情報基盤整備の推進  
荒廃地等の監視観測及びこれらの情報収集の高度化を図るために、光ファイバー網並びに監視機器等の整備を積極的に実施する。

### 環境

- 生態系等自然環境に配慮した砂防事業の推進（溪流環境整備計画）  
戸沢川ダム 他

### 活力

- 地域活性化を支援する溪流  
地域の活性化計画と一体となった砂防事業の推進（セーフティコミュニティ事業として戸沢川ダム）
- 祭りと共存する溪流  
「タキタロウまつり」と連携を図った砂防事業（東大鳥川ダム）



地域活性化をめざした砂防事業（戸沢川ダム）

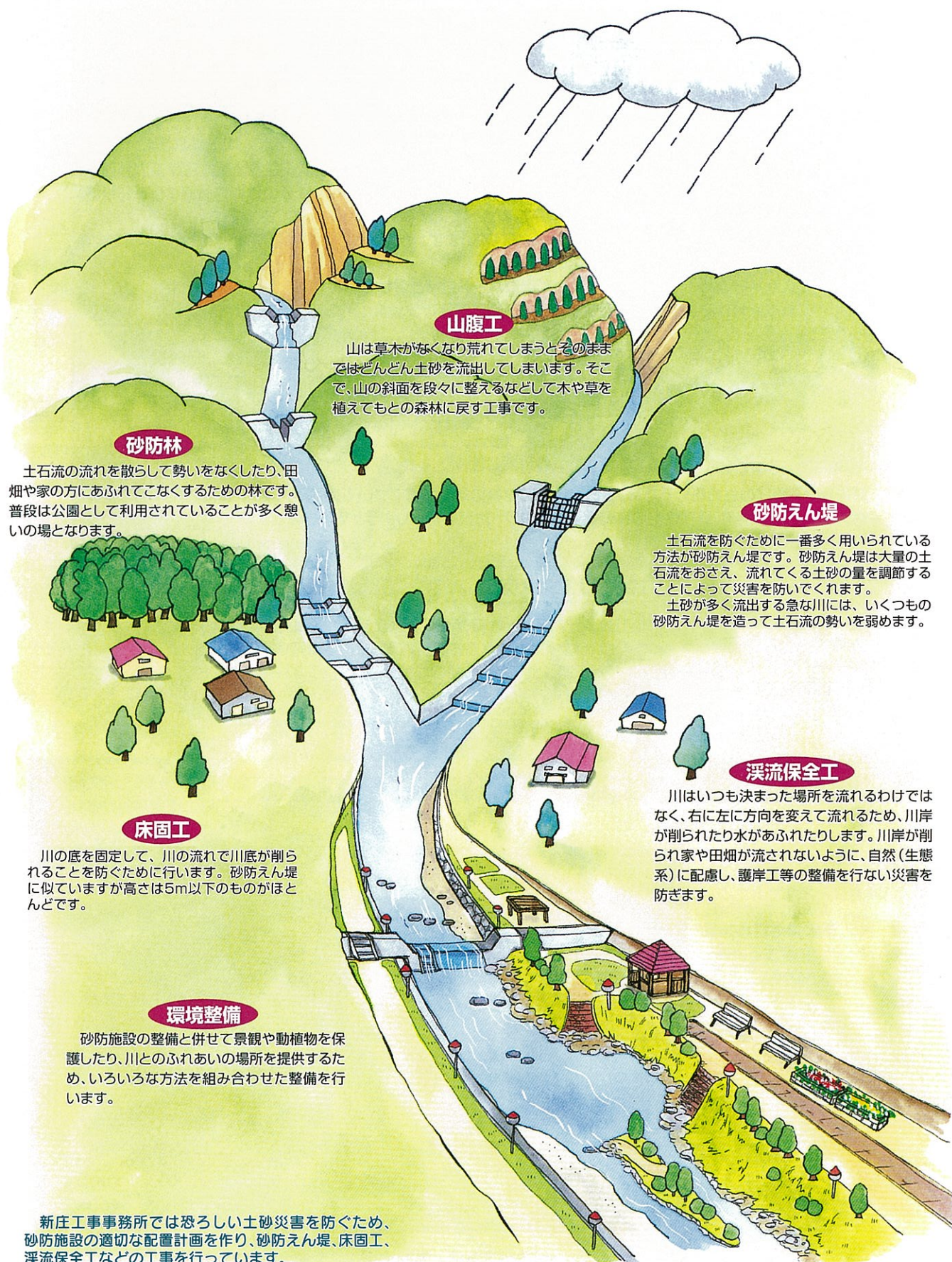


大鳥集落に向かう隧道状況



国道112号から月山を望む

## 砂防施設のいろいろ



### 山腹工

山は草木がなくなり荒れてしまうとそのままではどんどん土砂を流出してしまいます。そこで、山の斜面を段々に整えるなどして木や草を植えてもとの森林に戻す工事です。

### 砂防林

土石流の流れを散らして勢いをなくしたり、田畑や家の方にあふれてこなくするための林です。普段は公園として利用されていることが多く憩いの場となります。

### 砂防えん堤

土石流を防ぐために一番多く用いられている方法が砂防えん堤です。砂防えん堤は大量の土石流をおさえ、流れてくる土砂の量を調節することによって災害を防いでくれます。

土砂が多く流出する急な川には、いくつもの砂防えん堤を造って土石流の勢いを弱めます。

### 床固工

川の底を固定して、川の流れて川底が削られることを防ぐために行います。砂防えん堤に似ていますが高さは5m以下のものがほとんどです。

### 溪流保全工

川はいつも決まった場所を流れるわけではなく、右に左に方向を変えて流れるため、川岸が削られたり水があふれたりします。川岸が削られ家や田畑が流されないように、自然(生態系)に配慮し、護岸工等の整備を行ない災害を防ぎます。

### 環境整備

砂防施設の整備と併せて景観や動植物を保護したり、川とのふれあいの場所を提供するため、いろいろな方法を組み合わせた整備を行います。

新庄工事事務所では恐ろしい土砂災害を防ぐため、砂防施設の適切な配置計画を作り、砂防えん堤、床固工、溪流保全工などの工事を行っています。

## 新たに発生する大規模な崩壊



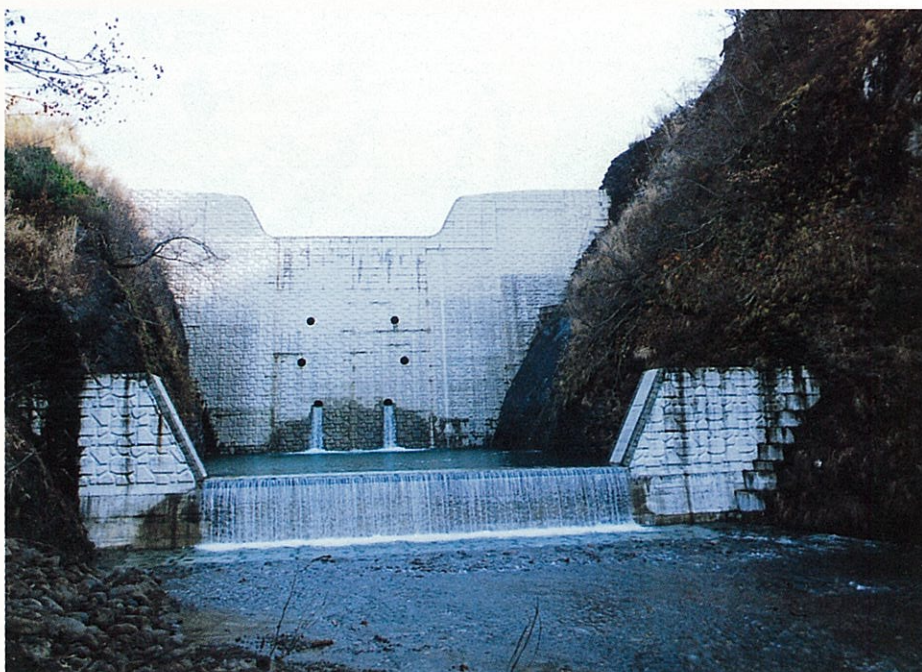
崩壊規模  
幅 約50m  
長さ 約150m  
深さ 約10m  
崩壊土砂量 約80千m<sup>3</sup>

大鳥集落上流に位置する樹形川で発生した崩壊。川をせき止め平成12年5月1日に確認された。緊急対策として砂防事業を実施中。

## 流域を代表する砂防施設

### 田麦川ダム

赤川流域  
堤高 35.0m  
堤長 69.0m  
堤立積 32,718.7m<sup>3</sup>  
重力式玉石コンクリート  
着工 昭和62年10月4日  
竣工 平成12年12月15日



(田麦川ダムは、東北で1位、全国では8位の高さの砂防えん堤です)

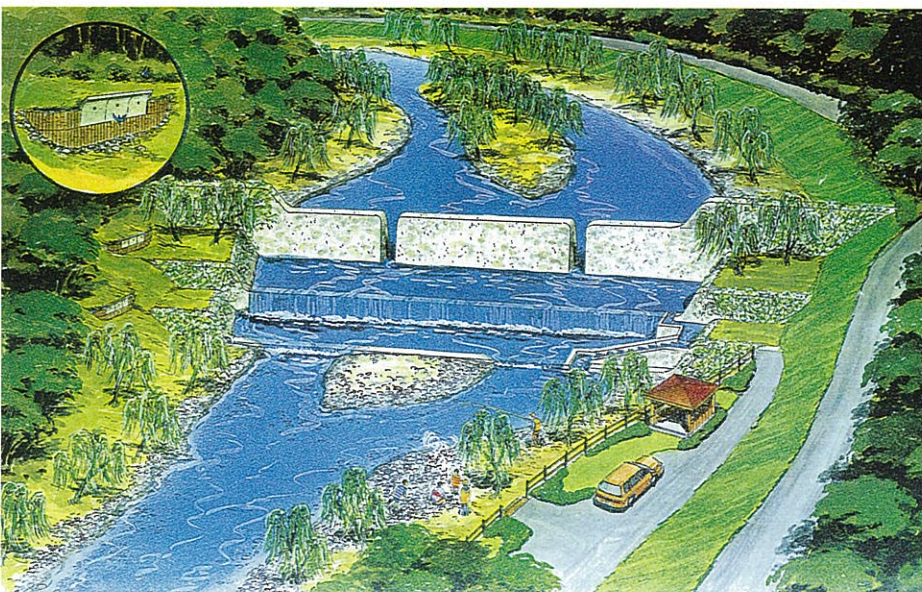


上田沢川ダム

上田沢流域  
 堤高 14.5m  
 堤長 70.0m  
 堤立積 7,155.1m<sup>3</sup>  
 重力式コンクリートスリット  
 着工 平成8年3月29日  
 竣工 平成13年1月22日

戸沢川ダム

戸沢川流域  
 堤高 5.0m  
 堤長 85.3m  
 堤立積 2,539m<sup>3</sup>  
 重力式コンクリート  
 着工 昭和63年3月11日  
 竣工 昭和63年8月20日



東大鳥川ダム(完成予想図)

赤川流域  
 堤高 14.5m  
 堤長 148.0m  
 堤立積 25,158m<sup>3</sup>  
 重力式コンクリートスリット  
 着工 昭和62年



朝日村の森林の多くは広葉樹で、その多くはブナの自然林です。ブナは5月上旬に残雪の山々に薄緑色の葉を広げ、夏は深く冷涼な木陰をつくれます。橙色に紅葉し、11月上旬に落葉します。天然林、森林浴といったイメージにもっともふさわしい樹です。

砂防事業に関するご意見及び情報などについては、下記に連絡願います。

**国土交通省 東北地方整備局**

**新庄工事事務所** 又は **赤川砂防出張所**

〒996 新庄市小田島町5-55  
TEL 0233-22-0251

〒997-04 東田川郡朝日村大字熊出字日鐘56-2  
TEL 0235-53-2841